

第2回 河内長野市総合計画（第3部会） 議事要旨

日時:令和6年12月14日(土)

午後1時00分から

場所:501会議室

1. 開会

○事務局あいさつ

2. 議事

(1) 基本構想骨子（素案）について（協議）

→資料1に基づき基本構想骨子（素案）について説明。

<質疑>

嶋田部会長：これでいけばよいという印象を持った。計画は行政文書で堅くなりがちで、市民から乖離していく。チャレンジングだが、市民と一緒に作ることを表すには、このタッチがよいと思う。

内容は、河内長野市の現状の等身大の姿を分析して、そこに新たな可能性の芽があるという整理になっている。手が届かないものではなく、基本的にはこのラインでよいと思う。Q&Aは並び方で印象も変わるため、それも考えたほうが、インパクトがあるものができるのではないか。

詳細なワーディングについては、韻を踏んだ表現などもあるが、「日本一安全なまちへ」でなぜ急に求心力が出てくるのか。また、「みんなバラバラ」の「バラバラ」はネガティブなので、「いろいろ」「それぞれ」のほうが、共生や協働、愛着につながり、ポジティブになるのではないか。「まちの顔を笑顔でいっぱい」は、そこまで行けるかな？と思った。「まちの顔をニコニコ」ぐらいがよいかもしれない。

そのようなことも含めて、感想やご意見をディスカッションで出していただきたい。

大山委員：河内長野市の根本的な問題は、人口減少である。社人研の推計では、6年間で小学生が約1,000人も減る。市長は選挙公報や市長就任後の施政方針で、消滅可能性自治体からの脱却が最大のミッションであると言及していたが、ここには何も書かれていない。これで議論を進めていくことが根本的にいいのかと感じている。これは河内長野の将来に向かっての計画ではない。市長と議会はヒト・モノ・カネのことを考えて、消滅可能性自治体からの脱却に向けて進んでいくと思われるが、計画は全く別のものになるのではないか。

市事務局：総合計画は、河内長野市が 10 年後にどんなまちになっていくかをしっかりと描いて、その実現に向けて取組を進めていくものであり、手段については市長がお示ししているとおりであります。

今回の資料は、事務局が単独で作成したわけではなく、延べ 2,000 人にご参加いただいたアンケートやワークショップを通じて様々なご意見を集め、市民が「こうあってほしい」と考える将来のまちの姿を、行政として集約したものである。つまり、「市民が 10 年後の姿を思い浮かべることができるもの」という位置付けであることをご理解いただきたい。消滅可能性都市を脱却した先にどのようなまちの姿があるかをしっかりと描けていないと、脱却も難しい。本部会は、そのベースとなる 10 年後の姿を検討する場としていただきたい。

嶋田部会長：まずは夢を描きましょう、危機感があってもみんなで一緒に走っていきましようと言うために、共通の絵姿を持とうということであると理解した。具体的な取組内容については、基本構想の下にある基本計画に書いていくことになるが、まずは、みんなでありたいと思える絵姿を検討していこうという位置付けで考えていただければと思う。

→資料 1、資料 2－1、2－2 に基づき、基本構想骨子（素案）についてディスカッション。

3. 事務連絡

→事務局より、事務連絡について説明

4. 閉会

（以上）

【参考：ディスカッションで出された主な意見】

問：10年後、私たちはどんな「ふだん」を生活しているのだろう。

答え（コピー）	A グループ	B グループ
自然が元気、みんなも元気。	・道の駅周辺の石川に釣り堀 ・道の駅と花の文化園を一体化へ（入園料 200 円） ・自然が元気とはどういう意味だろうか ・寺ヶ池公園に水と触れる施設を ・まちの中の自然は手入れしないとダメ ・1-1 だけ抽象度が高く、具体的な 1-2、1-3 と並列しているのが気になる	・芸術的な感性を読める表現（芸術的感性は他のパートで受けられるかも） ・「ふだん」の中にある付加価値（自然があるから健康、担い手がいるからこそ保たれる自然） ・豊かな自然との共生 ・「自然が元気」は自然がほとぼり荒れるようなイメージ ・「元気」？⇒「共生」「健康」 ・健康と笑顔
ホテルも、子どもたちも、光ってる。	・ホテルと子どもを並列させると焦点がぼける ・子育てのまち河内長野市 ・学校区ごとの子ども食堂	
水が美味しい。川が、まちが、美しい。		・水道水、府から供給されているのが 20% くらいある
求心力も抜群？ 日本一「安心」なまちへ。	・「求心力」にひっかかる ・誰に対する何の求心力だろう ・日本一「安心」は OK 言葉はもう少し何かないか。	・「求心力」はわかりにくい ・求心力→都会からの近さもアピールしては？とかいなか ・都会の喧騒からたった 30 分で「安心」が手に入る まちなかとの比較 ・安心安全なまち河内長野 ・防犯も。「河内長野はすごく安心」を表現したい ・「地盤」はハード的要素。でも安心は「人」の要素も大きい（心理的安全性）
オンラインで、まちづくりに参加？	・オンラインが参加しやすい？ ・「オンライン」より「デジタル」では？ ・町内会のお知らせを LINE にしても、既読は 12 人/27 人しかつかない	・オンラインでの強さが何故本市なのか？伝わりづらい ・オンライン→テレワークのイメージを強化 都会からの距離の近さ、職住近接 ・「オンライン」は唐突感。「いろんな手段で参加できる」かな？ ・「オンライン」は生活利便性向上全般では？

		・まちづくりには、様々な参加の方法がある 町内会・自治会以外の方が ・「自治会・町内会」だけではなく？ライオンズクラブ、NPO など
ちょうどいい近さの、ご近所さん。	・1-5 と近い 同じことを違う言葉で言っている ・近所で助け合うことの大切さが伝わってほしい ・自治会によせてのつながりではなく、防災でつながるご近所とか ・支え合う向こう三軒両隣 ・防災・安心でつながるご近所さん ・ちょうどいい＝節度ある	・コミュニティ、自治会、旧村、周辺、団地、新興で大きな差が。ピンとこない ・1-5、1-6 は「若い人、共働きの人も暮らしやすい」ことを表現したいのでは？ ・ちょうどいい近さ？本市はニュータウンが7割、近いのか？ ・挨拶のできるご近所 ・「ご近所さん」も濃さが全然違う。立ち位置によってはピンとこない ・濃すぎないけどいざという時頼れる

問：「じぶん」が活きるまちって、どんなまちだろう。

答え（コピー）	A グループ	B グループ
全員、主役。全員、ファン。	・「誰もが主役」の方がわかりやすい 語呂も良い ・「誰もが主役」だけでよい ・後半の言葉は 2-2 で全部受けている	・足をひっぱらない！嫉妬しない ・地域が主役、地域がファン ・いろんな活動のエリア（分野）で活躍する人（やりたいと言える環境）、それをサポートする人
支えて、支えられて、活かし合って。	・2-1 の全員ファンはこの内容と重複しないか	・2-1 と 2-2 はつながっている？出口が違うの？2-2 は福祉？
地域がまるごと、学校。	・地域が学校はもう実現している。これを維持する？観心寺、延命寺の活用。	・みんなが先生 ・なりたい、知りたいを実現できる多様な学びの環境 ・子どもの学びは個性と多様性に基づく ・いろんな大人がいろんな関わり方をする（教える）
学びを、誰かの喜びに。	・「学びを」よりも「学んで」ではないか ・私の趣味はボランティア ・私の趣味はまちづくり	・学んだ人が還元する（発表・発揮できる場がある） ・学んだ人が先駆者になって伝えていく

		・ 学びが循環する
動いた先で、いくつもの感動を。	・ 色々な要素を含めているが、混ぜ方に無理がある ・ 動いた数だけ感動がある ・ 移動手段の話はもう少し深めたい	
みんなバラバラ、みんなイキイキ。	・ 「バラバラ」は刺激的というかネガティブでチャレンジングな表現。 ・ 「個性いろいろ みんなイキイキ」でどうか	・ みんな違っていい ・ バラバラよりいろいろ、それぞれ。違っていい、多様性

問：③これから、どんな「好き！」を深めていけるだろう。

答え（コピー）	A グループ	B グループ
まちの顔を、笑顔でいっぱい。		
あたらしい一歩、踏み出し放題。		
推せるものを、育てるうれしさ。	・ おせっかい大歓迎 子育て手伝い ・ 子ども大好き見守り隊	・ 祭は今は育てるよりも守ることが大変 ・ 芸術もある（美術、音楽・・・） ・ 市民が主体的に「推し」に関われる ・ 自慢・誇り（実はすごい！）
住（じゅう）を、もっと自由に。	・ この状態（住をもっと自由に）を目指したいか？ ・ 週末だけで良いか ・ 流動人口をふやす	
畑で活躍するクリエイター？	・ 「畑と森で」とするとか	
つながって、叶えていく。		・ やりたいことがつながって実現できる

その他の意見

A グループ	B グループ
	千年都市の「都市」に違和感を覚える。「千年のまち」で統一し、京都との差異を表現してはどうか